

利用者が動物に直接接触する機会を提供する取組に係る審査申請書

市民動物園会議 委員長 殿

札幌市円山動物園長

下記の、利用者が動物に直接接触する機会を提供する取組について、実施の承認を申請します。

記

1 取組の名称	ニホンザリガニプログラム
2 実施期間	通年
3 実施場所	動物園の森、ザリガニ小屋
4 利用する動物	ニホンザリガニ
5 利用者の属性	近隣小学校児童、園内利用者
6 実施の必要性	ニホンザリガニの保全を目的としたニホンザリガニプロジェクトの一環として実施する。ニホンザリガニをとおして、また、直接接触れ、実地活動に携わることで、生息環境の保全、種・生物多様性の保全について啓発効果を高め、共生を考えるきっかけを作ることができる。
7 具体的な内容 (頻度、方法など)	別紙_資料のとおり
8 動物福祉を確保 するための考え方	動物福祉の確保については、別紙資料のとおりとする。
9 実施責任者	所属：飼育展示・診療担当課 飼育展示二担当係 氏名：朝倉 卓也、片岡 雅人、中田 銀太
10 備考	

実施計画書（案）

事業名	ニホンザリガニプログラム
利用する動物	ニホンザリガニ
目的	ニホンザリガニの保全を目的としたニホンザリガニプロジェクトの一環として実施する。札幌市民にとって身近に生息しているニホンザリガニについて、実際の生息場所をみて、生体に直接触れ、小川の整備や生息数調査などの実地活動に携わることで、生息環境の保全、種・生物多様性の保全について啓発し、共生を考えるきっかけを作る。
場所	動物園の森、ザリガニ小屋
期間	通年実施
対象	小学生及び来園者
参加人数	近隣小学校からの参加であれば最大 40 名程度、 来園者の参加であれば 10 名程度を想定
内容	<p>【プログラムの流れ】</p> <p>パターン A</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ニホンザリガニに関する解説 (2) ザリガニ小屋での生体の観察 (3) 負担の少ないザリガニのつかみ方、触り方、その影響についてレクチャー（脱皮殻、模型を活用） (4) 希望者・代表者に生体を持ってもらう (5) 小川での観察、ザリガニの生息環境についての解説 <p>パターン B</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)～(5)に加え小川の整備（石の配置や土掘り）を行う <p>※ 将来的には小川からの採取も想定 ※ プログラムは全体で約 1～1.5 時間。</p>
動物福祉の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムは多くて月に 2 回程度の実施 ・実施前につかみ方や持ち上げる高さなどのレクチャーを行う ・健康状態を確認し、問題がない個体を利用する。 ・ザリガニに触れる時間はできるだけ短くするよう指導し、長くても 1 人あたり 1 頭につき 1 分間までとする。 ・ザリガニの状態が良くない場合は、プログラム内容をザリガニに直接触らないものに変更する。 ・実施の際は 2 名以上の職員を付け、指導する。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・学校対応では小学校 4 年生以上のプログラムとする。 ・展示動物だけでなく、参加者の安全にも十分配慮して実施する。 ・実施方法については、定期的に見直しを行う。